

私の思い出



内山 伊藤 馨

なり、一元のお客さんの帰って行くのは、翌日になってからだった。

それから、結婚の形態もこの数十年の間に全く変わってしまっている。以前は、恋愛結婚は見にくものとされ、例外結婚として物笑いの種となるほどだった。ところが、一昨年の統計では、今の見合い結婚は三、パーセントと伝えられている。当時、村の素

変われば変わったものだ。ついこの頃といっても五十数年前までは、大町以北は、雪の降る十二月から四月半ばまでは、鉄道だけで道路は全く開かず、車は通らなかつたものだった。今のようブルドーズも無く、雪消え間近になつてから、佐野坂の道を幾日もかかってスコップでの掘割を人の力で行い、ようやく車が通るようになったものだった。

次に結婚も変わったものだ。今では結婚式を自家で行う者は、恐らく一軒もない。以前は婚家へ嫁さんが着くのは、日の暮れた夜に決まっていた。それから、式が行われ披露宴が夜中じゅう続いて夜更けに

封家の親爺さんが「こんな時代はえらい長くは続くものではない。家の縁を組み上げるのは今のうちだ」と真剣に言われたことがあった。すべての動物でさえ好いた者同志一緒になつている。萬物の霊長たる人間同志の恋愛結婚は決まったものだ。次に、断片的な

事ばかりで恐縮だが、家の作りも天下の観光地となつて来た白馬は昔とすっかり変わってしまった。それ前、私の子供のころはどこの家も全部が茅葺き屋根で家の真ん中には囲炉裏があつたものだ。今となつては、白馬村三千数百軒のうちで、茅葺きの家は何軒あるだろうか。恐らく十数軒ほどとなつてしまつている。田舎の良さはこれにあるが、なんとも淋しいことだ。大正生まれの者には、なんとも住みにくい世の中だ。



96号の表紙を飾つた花嫁花婿

追跡レポート

こないだ聞いたことあり
どうなつただかやあり

(平成22年6月) 定例会一般質問

問 子宮頸がんワクチン接種は高額な個人負担となりま
す。接種費用への公費補助の考えは。

答 取り組みを始めている自治体を参考にして、積極的
に取り入れて検討したい。

問 検討するのはいつ頃か。

答 できるだけ速やかに。来年度の予算編成の検討材料
としたい。

その後

平成23年2月から実施しています。平成23年度は当初か
ら予算に費用が計上されています。国庫補助と村費が半分
ずつ。個人負担はありません。